

「ものが豊かになり、心がさびしく」

この言葉に出会ったのは、昨年4月下旬のことでした。定年退職を迎え、自由な時間が持てるようになり、初めて妻の花展を見るため池坊会館に向かって歩いていた時のことでした。京都の烏丸通りを真っ直ぐ北に向かい、東本願寺の前を通りかかった時、^{のぼりはた}幟旗の一つに、「ものが豊かになり、心がさびしく」という言葉が書かれていたのです。

見た瞬間、私の人生そのものの言葉だと思いました。小学生の時は三種の神器の時代でした。小学校1年生の時に近所の八百屋さんに白黒テレビが入り、初代若乃花の相撲を見に行っていました。そのうち自宅に白黒テレビが入り嬉しかったのを覚えています。白黒テレビ、冷蔵庫、洗濯機を買うのが夢だった時代でした。中学生から大学生にかけては3C。カラーテレビ、カー、クーラーを手に入れるのが夢の時代でした。まさに大量生産、大量消費の時代を生きてきたのです。そして今、私たちの身の回りは物があふれ、欲しい物が見当たらない状況です。

「お元気ですか」、「おかげさまで」。私の小さい頃はこんな挨拶が日常よく聞かれたものでした。今はめったに耳にしません。

東大寺元管長で、大仏殿昭和の大修理を成し遂げられた清水公照さんは、「おかげさまで」の言葉に、日本の心を感じるとおっしゃってみえます。また、先ごろ亡くなられた大鵬さんは、優勝インタビューではこの言葉しかおっしゃらなかったそうです。相田みつをさんは『おかげさん』と題した本を出版されています。私にとっては、生かされていることへの感謝の言葉であり、お念仏申し上げるのと同じ意味をもった言葉となっています。